

平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台明德幼稚園

当園ではこの度、平成29年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価、保護者アンケートを実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

鶴山台明德幼稚園では、徳育を中心として知育・体育・国際化教育と4つの柱をたて、バランスのとれた教育を実践しています。

お父さん、お母さんを大切にできる子供に、また思いやりのあるやさしい子供に、そして誰にでも元気に挨拶のできる子供に成長してくれることを願い、教職員、講師自らが道徳性を身につけ、子供たちにより感化が与えられるよう、日々研鑽努力をしています。

遠足、運動会、お芋掘りなどのいろいろな行事や、絵画制作、英語レッスンなどの活動を通して情操教育にも、力を入れています。

又、同年齢はもちろんのこと異年齢の子ども達とのかかわりを持つことによって育つ、年長児としての自覚と責任感、年中児・年少児にとっては安心して参加できるというねらいのもと、「なかよし保育」を園内での活動や園外保育に取り入れています。

子ども達のよいところをたくさんみつけ、保護者の皆様と手を取り合って、すばらしいお子様を育てていきたいと考えています。

II. 今年度の重点目標

●教職員の資質向上 ●安全管理体制の充実 ●保護者対応

III. 自己評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み内容
1	教職員の資質向上 子どもにとってよりよい教育のためにどのような取組をしましたか？	B 子どもと同じ目線に立ち、想像力を養えるように意識をしながら表現活動に楽しく取り組めた。一人ひとりの性格やタイプに合わせた声掛けを行い、制作なども年齢に見合った内容であるかを見極めて、子どもたちが興味を持って取組みたくなるように工夫を凝らした。研修等を通じて制作や絵画の指導の仕方を学び、教育内容を充実させるとともに、色んな教材にも触れられるようにしていきたい。 またメリハリのある保育環境を目指し、園全体での教育の質向上をねらいとして、実際に保育見学を行うなど互いに意見交換をしていきたい。

平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台明德幼稚園

自己評価項目		取組み内容	
2	教職員間の連携強化	会議や終礼等の情報共有によってどのような取組みをしましたか？	B 終礼時に子どもたちの様子を伝えあい、他のクラスの状況や気になる子について共有することができた。その中で他学年の様子に留意しながら、配慮を要する子には個別に声掛けができていた。リーダー会議での決定事項は速やかに周知することを心掛けて計画が立て易くなり、他学年の活動を把握できたので協力が得られた面もあった。一方で、朝礼および終礼に出られなかった人への伝達がうまくいっていなかったところも見受けられたため、引き続き取組みを行っていく。
3	安全管理体制の充実	避難訓練の回数やその方法・設定について再度検討する。	A 火災及び地震の避難訓練は学期ごとに定期的に行っている。昨年度よりも避難訓練の回数を増やしたことで、不審者訓練に取り組めたのは良かった。子どもたちも訓練の中でどうしなければいけないのかを考え冷静に行動できてきた。その結果、子どもたちも避難の仕方が上達し、防災ずきんやハンカチが素早く準備できるようになった。
		子どもたちが安全に遊具を利用できる環境を整えるために、遊具の確認を定例化して行う。	B 子どもたちが鉄棒やジャングルジムで遊ぶ際には、安全のために教職員が側について注意して見ている。遊具の脇に安全シートを施し、事故防止の注意喚起をしている。また、子どもが転倒しやすい遊具の階段にはクッション材をつけて改善を行った。遊具周囲の確認を行い危険なものがないかチェックしているが、定例化するまでは至っていないため、点検日と担当者を決めて点検の徹底を図っていく。
4	園全体の発展	園全体の発展につなげるため、保護者アンケートの集約意見を教職員全体で考察する。	C アンケートの意見について学年で話し合っているが、全体での考察は十分ではなかった。中には厳しい意見もあり、しっかり目を通して子どもたちに対する保護者の思いにも理解を深めることができた。他の学年のアンケート結果も共有を図り、園に対しての意見についてはみんなで意見を話し合う機会を持ち、前向きに取り組んでいきたい。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	研修から学んだ知識やスキルを他の学年の先生とも分かち合い、日常保育へ活かしていく。
2	教職員間の連携強化	朝礼・終礼及び会議での決定事項の伝達もれをなくし、全教職員で共有のうえ伝えあう。
3	安全管理体制の充実	訓練実施の頻度と時間帯を見直し、様々な状況を想定して取り入れていく。
4	安全管理体制の充実	子どもたちが安全に園生活を送るために、遊具をはじめ備品類の確認を定例化して行う。
5	園全体の発展	園全体の発展に向けて、保護者アンケートの集約意見を教職員全員で考察する。

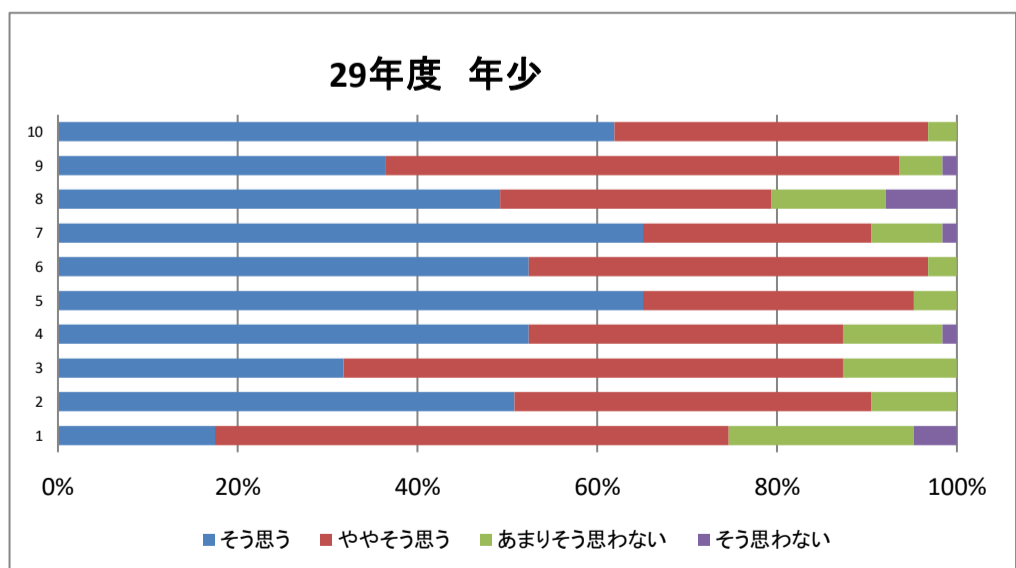
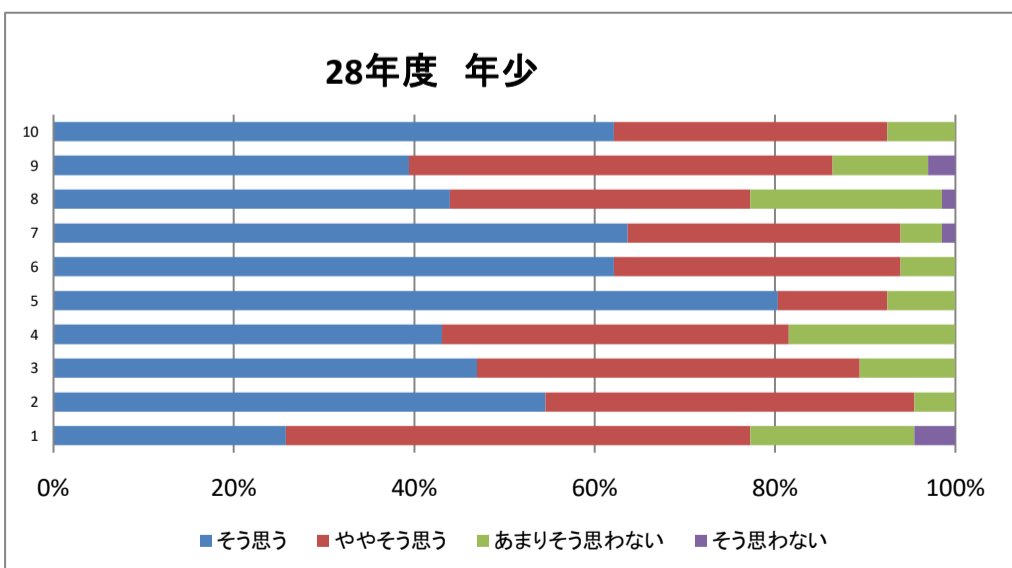
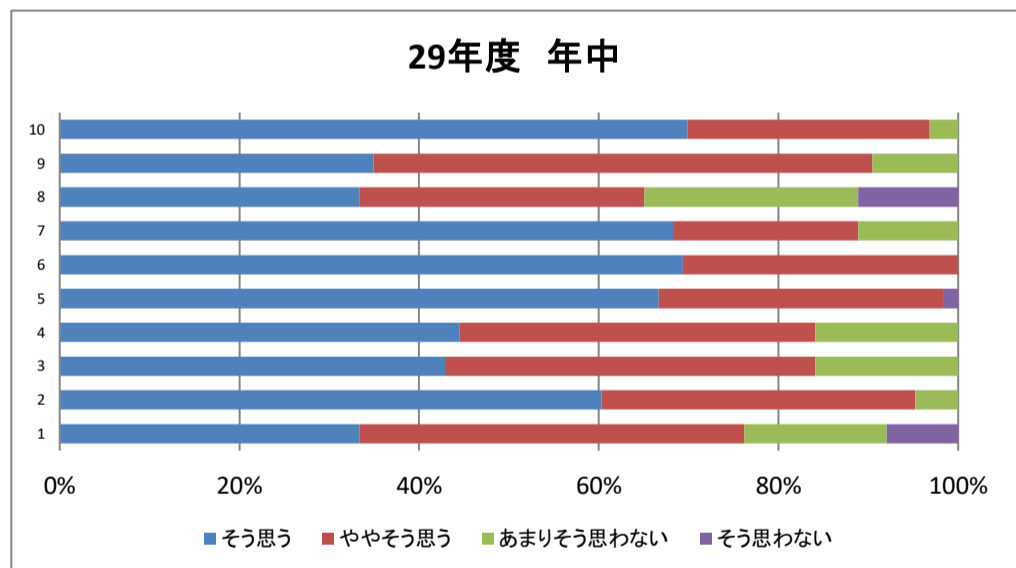
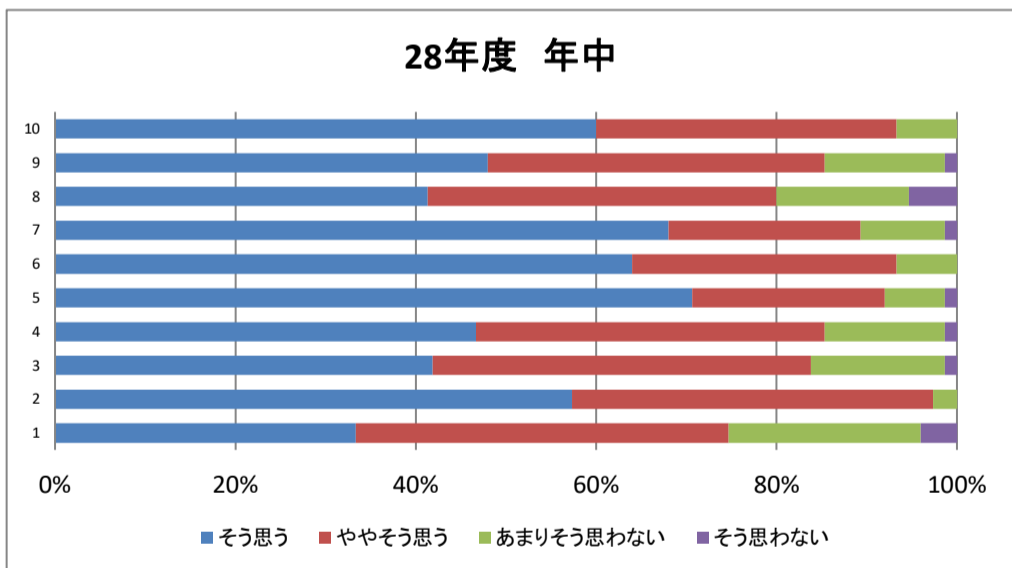
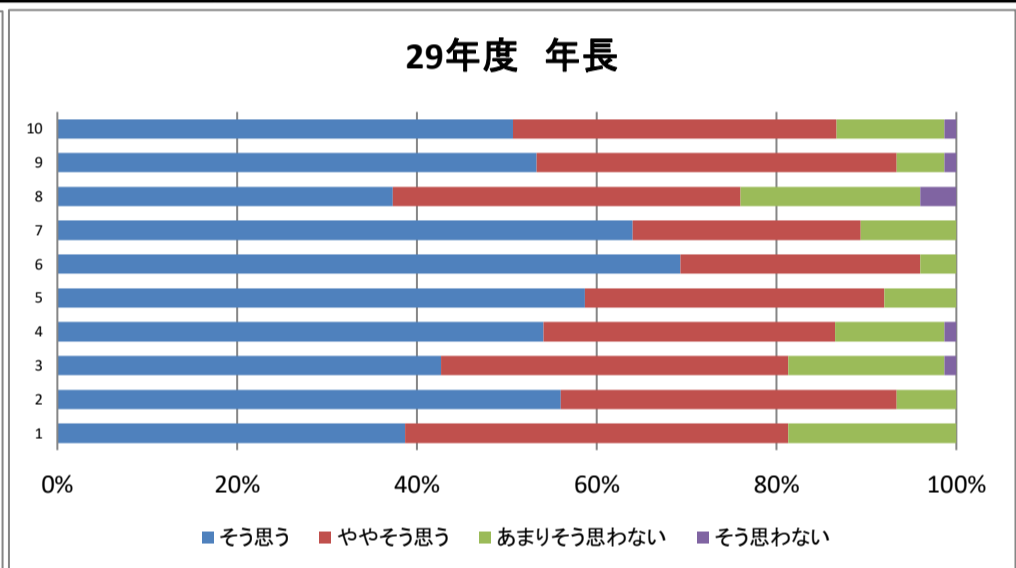
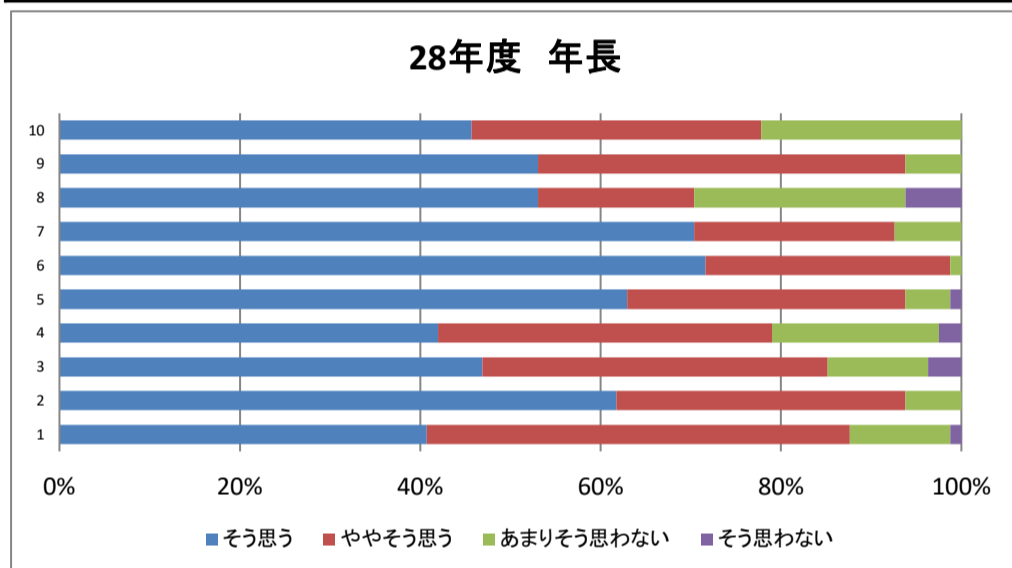
平成29年度「学校評価結果報告書」

学校法人 嶋田学園
鶴山台明德幼稚園

V. 保護者アンケートの結果

■アンケートの集計結果

質問1	質問2	質問3	質問4	質問5
お子さんは、誰にでも自分から挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えることができますか？(ありがとうの言葉など)	お子さんは、感受性が豊かだと感じる時がありますか？	お子さんは、話を聞く時、相手の目を見て聞くことができますか？	お子さんは、お家で進んでお手伝いをすることができますか？	お子さんは、絵本に興味を持ち、読んでもらおうという姿勢が見られますか？
質問6	質問7	質問8	質問9	質問10
お子さんは、集団生活の基本(順番を守るなど)がきちんとできていますか？	お子さんは、体育活動(跳び箱、縄跳び、鉄棒、一輪車、ボールなど)を楽しみにしていますか？	お子さんは、プール活動を楽しみにしていますか？	お子さんは、体育活動やプール活動を通じて、体が丈夫になったと思いますか？	お子さんは、英単語や英語の歌などに興味を示していますか？



■アンケート結果の考察(気付いた事・今後の課題など)

◇項目1

昨年と同様年中、年少での結果が70%台の結果に取り組みの成果が上がっておらず残念です。園での生活の中でのあいさつはできているのですが、どんな環境の中でも自分からあいさつをする習慣が身に付くような環境づくりを徹底し、指導していきます。

◇項目2

全学年で良い結果が出ていることは、子ども達の感受性の豊かさが育っていることが保育の中で知ることができます。散歩や園外保育の経験や普段の保育の中でも発見や喜びを更に見過ごさず、取り組み育んでいけるように見守っていきます。

◇項目3

全学年でよい結果が出ていると思います。幼稚園での指導の中でも話しているひとの目を見て話す、そして聞く事の大切さを伝えて日々指導している成果の表れだと考えられます。園とご家庭とで実践していく事で更に良い結果につながると思います。

◇項目4

全学年で良い結果が出ています。幼稚園での当番活動や先生のお手伝いを通して人に対して役立つ喜びや楽しさ、責任感を持って取り組むやりがいを実感したことで、ご家庭でも進んでお手伝い出来るようになっていくと思います。褒められ、認められる喜びを実感出来るように指導していきます。

◇項目5

良い結果の要因は、週1回の絵本の持ち帰りに対してご家庭における保護者の皆様のご協力の賜物によるものと思われま。特に絵本を子ども自身が選び持ち帰ることで、子どもの興味も大きく、読んで下さることを楽しみにしています。絵本に一層興味を持てるように園での読み聞かせの機会も増やしていきます。

◇項目6

年長、年中で90%を超える結果が出ています。集団生活の中で基本ルールを守るという大切なことを徹底し、子ども達が自らルール理解し進んで規律を守れるように、より一層丁寧に指導していきます。

◇項目7

全学年で良い結果が出ています。体育講師との連携を密にし学年の目標を明確にしながら、縄跳びや跳び箱、鉄棒等、個々に努力し達成感を味わえるようにし、体育活動を更に楽しく有意義な時間としてよい結果に繋げていきます。

◇項目8

昨年に比べると結果が出ていると思われま。今年度進級テストの回数を増やすことで、子ども達のやる気と結果が出たことで挑戦意欲が高まったと考えま。

◇項目9

ほぼ高い数値で、幼稚園での体育活動やプール活動を通じて身体が丈夫になったと感じて頂けた事は喜ばしいことですが、年少についてはこれからの園生活において実感していただけるように取り組んで参ります。

◇項目10

年少、年中については90%の高い興味を示していますが年長で少し下がっているのが残念です。ネイティブ英語、歌やゲームなど子どもの興味ができる教材で楽しんでいます。学年にあった教材を工夫し、興味を育てる内容を検討します。

VI. 学校関係者の評価

教職員の資質向上や連携強化について、全員が服装を統一する、コミュニケーションの質を高める等により、全職員で情報共有を行っていこうという姿勢が伝わってきます。

安全管理体制では、園内の危険箇所を気を配りながら即時対応を行う等、園全体で取り組みが徹底されている様子が伺えます。教職員が意識を持って些細な危険要因から無くしていく事で、安全管理の充実を図れていると感じます。

先生方一人ひとりが自身の教育方法について、その内容や指導法の向上を目指して日々努力を重ね、園児一人ひとりに対して、丁寧な指導をされていることが良い結果に繋がっています。日々の終礼時に情報交換を行い園児の様子について共通理解が図られています。教職員同士で保育の経験年数に関わらず、さらに積極的な意見交換がなされることを望みます。安全管理体制も当番制を取り入れ、担当者による継続チェックが行われています。

今後の課題も適切に設定されており、引き続き全職員が一丸となり、協議を繰り返しながら取り組んでいただきたいと思います。

以上